

大おおくわ 議会だより

第186号

令和8年 10月22日発行

9月定例会

令和7年度決算認定 …… 2

村政を問う

6名が一般質問 …… 5

議員になってよかったこと … 13

がんばる村内企業²⁸

Pizza&Cafe MIYABI … 14



桃介公園の紅葉（昨年撮影）
撮影者：議会報編集特別委員会

9月 定例会

9月定例会は、9月16日から24日までの9日間の会期で開かれ、諸報告や一般質問（6名8件）などを行った。村側から報告2件、条例改正1件、補正予算2件、工事請負契約2件が提出された。また令和7年度一般会計及び特別会計並びに企業会計の決算認定が上程され、議員からの発議1件もあわせて慎重審議し可決した。

令和7年度決算を認定

決算 概要

第6次大桑村総合計画前期基本計画の2年目として、人口減少対策（移住定住・子育て・産業・健康・教育・防災等）の重点施策や、国の補正予算を活用した物価高騰・経済対策を実施した。

一般 会計

歳入 40億936万6千円

歳出 37億9,103万9千円（前年度比 1.1%増）

◆主な財源

村税全体で前年度比2.9%増加（村民税14.8%増加、固定資産税2.2%減少）地方交付税は1.1%減少

◆成果・実績

- 延沢・サヨリ沢河川整備
- 大島地区駐在所用地造成
- 中学校給食無償化・修学旅行費支援
- 木曽病院分娩休止に伴う遠方分娩交通費助成
- きそバス運行に合わせた移動手段充実
- 野尻向橋等の長寿命化事業の継続

●農地の地域計画を更新

- 森林環境譲与税による危険木伐採・中山遊歩道整備
- プレミアム商品券発行
- ようこそ大桑村定住補助金新設
- 基幹業務システム標準仕様への移行完了

◆村債と財政健全性

- 村債残高は45億9,652万6千円（3億2,000万円・6.5%減少）実質公債費比率12.2%（同率）、将来負担比率28.2%（4.2ポイント減少）で健全性を維持

決算審議

住民課 関係

Q 住宅新築補助金の内訳は。

A 全6件が村外業者（50万円または100万円交付）。地元業者利用時の10万円加算制度もあるが、合計450万円となった。

Q 地域公共交通の利用状況は。

A くわちゃんバス延べ6,605人（委託料2,357万円）、乗合タクシー延べ11,085人（委託料1,994万6千円）。乗合タクシーの利用割合と財政負担が高く、今後の対策が必要である。

産業振興課 関係

Q 道の駅清掃等業務委託料（234万2千円）の内訳と、トイレの衛生状態・ゴミ箱配置等の美化対策は。

A 費用に消耗品代を含み、トイレは毎日4時

間清掃の契約である。指摘箇所を確認し対応する。ゴミ箱は家庭ゴミ持ち込みの懸念を考慮し設置を検討する。

Q 地域おこし協力隊補助金（504万1千円）等の支出が、指定管理業者の決算書で整合しづらいかどう把握しているか。

A 売上総利益に人件費が含まれる。表記が分かりづらいため、内容を把握できるよう決算書等の改善を事業者に求める。

総務課 関係

Q 情報システム標準化は令和7年度で終了か。また運用費増や独自サービス低下等の懸念への対応は。

A 繰越し分を含め令和8年度完了予定である。負担増等の懸念はあるが、住民の暮らしや福祉増進を第一に適切に運用する。

福祉健康課 関係

Q 子育て世代包括支援センターの事業費増加理由（2,723万円）と、無料の枠がある中で有料の一時預かりが利用される理由は。

A 職員異動等による人件費増加が主因（人件費約2,453万円、燃料費約160万円、委託料約110万円）。有料利用は里帰りや、無料の上限を超えた預かりによるものである。

教育委員会 関係

Q 奨学金貸付者が急増した理由と、育英基金減少に対する今後の財源確保策は。

A 貸付額増額や村内就業による償還免除等の制度改正による。基金枯渇時は、過去同様に一般会計から補填し継続する。

一般会計補正額 **△2,832万4千円**
補正後の予算額 **38億8,357万7千円**

主な増減理由

歳入：地方交付税額の確定による増額

国庫支出金・過疎対策事業債の減額（庭の畑橋架替事業他の減額）

歳出：庭の畑橋架替事業他の減額・旧J A木曾野尻出張所の土地建物購入の増額・児童手当国庫負担金返戻金 など

補正予算審議

一般会計補正予算（第2号）

前年度繰越金と普通交付税額の確定、地方創生臨時交付金による物価高騰対策と児童手当国庫負担金返戻金の計上、道路橋梁費の国庫補助金交付決定に伴う事業費の減額が主なもの。

簡易水道事業会計補正予算（第2号）

設備の維持管理に要する調査費用の計上により、収益的収入及び支出をそれぞれ324万4千円追加するもの。

審議

Q 「地域づくり活動活性化支援補助金」が130万円計上されているが中身をわかる範囲で伺う。

A 2団体から申請が上がっている。具体的な選定はこれから審議する。

Q 旧J A野尻出張所の土地建物購入300万円について目的と今後の活用などを伺う。

A 観光協会の法人化を目指している。現在、

野尻地区館内で事務を行っているが、シルバー人材センターや分館の事務所も入っており手狭となっている。観光協会が独自の建物を持って独自の事業や営業活動を行い、収益を上げられるよう購入し活用する。また将来の負担については、法人化した後も行政からの支援は必要であり、建物の家賃等への助成も想定している。ただし、観光協会自身が収益を上げていくことで、村からの助成額がなるべく減るような努力を求めている。

Q 福祉施設等物価高騰対策事業について、具体的な基準や内訳を伺う。

A 施設割（11万円）、定員割（1万6千円）、車両（1万3千円）等を基準に補助を行う。主な内訳はグループホームさくら家（23万5千円）、サンシャインあてらのグループホーム（41万1千円）、ショートステイ（46万9千円）、社協（48万4千円）、宅幼老所あがらんしょ（23万9千円）、くわっこ工房（22万6千円）、社協のヘルパーステーション・居宅介護支援事業所（各2万6千円）、医療関係施設3箇所（各6万8千円）など、総額261万5千円の補助を行う。



木曽広域連合議会報告

▼令和7年度の主要事業及び特記事項

- 森林経営管理業務の推進
構成町村と連携し、6町村で61団地4,981haの森林調査を実施。42団地1,571haの経営管理権を取得し、21団地612haの経営管理実施権配分計画の公告を終えた。
- 木曽地域広域観光振興・交流の推進
「なごや水フェスタ」や「木曽路観光・物産展 in 名古屋」の開催、インバウンド対応に向けた台湾モニターツアーの実施・DMOでの

商品化など、広域観光の推進に取り組んだ。

- 地域医療提供体制・自立支援の検討
「木曽地域の医療提供体制検討会」を共催で開催して地域医療の課題を共有・議論したほか、木曽圏域自立支援協議会等の活動を推進した。
- 全国消防救助技術大会で第1位獲得
第54回全国消防救助技術大会の「ほふく救出」において、木曽消防署チームが第1位（所要時間35秒5、減点なし）を獲得した。

令和7年度 歳入歳出決算

会 計	歳入総額	歳出総額	実質収支額
一 般 会 計	35億9,002万円	35億3,619万円	5,383万円
介護保険特別会計	41億6,088万円	40億8,611万円	7,477万円

令和7年度 公共下水道事業会計 決算

区 分		決 算 額	当年度純利益
収益的収入及び支出	下水道事業収益	9,465万円	327万円
	下水道事業費用	8,352万円	
資本的収入及び支出	資 本 的 収 益	0円	※△2,454万円
	資 本 的 支 出	2,454万円	

(※)不足額は、当年度分損益勘定留保資金で補填をした。

全員協議会

「地域の未来予測」の策定について議論を行い、令和8年度中の策定・公表及び令和9年度からの事業実施に向けた進捗状況が報告された。

(報告者 額額悠乃)

条 例 改 正 等

【報告】

- 議会の委任による専決処分 2件
道路（村道中学校南線、村道新田東線）の管理の不備による損害賠償額の決定

【議案】

- 大桑村福祉医療費給付金条例の一部改正
診療費支払い仲介機関の「社会保険診療支払基金」が令和8年10月1日から名称変更され「医療情報基盤・診療報酬審査支払機構」に改正するもの。
- 野尻浄化センター電気設備更新工事請負契約
契 約 金 額 1億3,761万円

契約の相手方 東京都渋谷区代々木三丁目22番地7号
西川計測株式会社 代表取締役
赤塚雅賢

工 期 令和8年9月17日から令和10年
3月15日まで

- 和村橋上下水道管添架工事請負契約

契 約 金 額 2億5,300万円

契約の相手方 木曽郡大桑村大字野尻1307-8番
奥田・木下特定建設工事共同企
業体 代表取締役 奥田和彦

工 期 令和8年9月17日から令和9年
3月25日まで

委員会報告

経済建設常任委員会

◎6月30日開催

▼東部浄水場第一水源及びもみじ荘解体现場の視察

東部浄水場は第2水源の水沢からの取水が主であったが、伊那川上流の第1水源からの取水が確認でき安定した水量が確保されている。

もみじ荘の解体により登山者の駐車場が確保され、簡易トイレ設置も確認した。

▼水道施設及び下水道施設の現状や今後の計画等について説明

人口減少や厳しい財政状況の中で上下水道のインフラを維持するため、各種の計画を立て取り組みを行っている。コストだけでなく、施設としての機能維持に必要な最低限の人口規模や、継続利用せざるを得ない住民への説明、浄化槽など保守点検業者の確保、近隣自治体の動向なども踏まえた多面的な検討が必要であるとの意見が出された。

(報告者 洞野 宏)

議員発議

- 次期学習指導要領における包括的な性に関する教育の充実及び「はどめ規定」の見直しを求める意見書（案）の提出について

提案者 瀬戸 悠乃

賛成者 瓜尾美佐子

審議結果 全員賛成で可決

大桑村議会は、子どもたちの生命、身体、人権及び尊厳を守る立場から、学校現場における

性教育の充実と「はどめ規定」の見直しを実現するため、下記の要望事項を国に対して求める意見書を全会一致で可決した。

1. 発達段階に応じた「包括的性教育」の学習指導要領への明確な位置付け
2. いわゆる「はどめ規定」の撤廃及び見直し
3. 教員研修の充実、専門職連携・財政支援及び保護者・地域社会との連携強化

木曽郡町村議会議員総会 ～木曽地域防災強化について提案～

木曽郡町村議会議員総会は7月31日上松町のきの里総合文化センターで開催された。大桑村議会から藤原議員が「木曽地域防災強化について」を提出した。木曽地域の大規模災害時における「情報の孤立」と「物資の孤立」を防ぐため、町村間の通信・備蓄の課題を克服し、木曽地域全体と県の連携による迅速な初動体制の基盤作りが必要であり、以下の支援策等を提案した。

①県による木曽地域災害想定を作成

県が木曽地域全体の災害被災想定を作成し、各町村が共通の想定に基づき近隣町村支援も視野に入れた個別の防災計画を作成できる環境を整え、その防災計画の中での県の役割を明確にすること。

②県による各町村の防災計画実施における財政支援

各町村の防災計画を具体的な実施計画に展開

するにあたり、安全・安心な避難環境の確保、燃料を含む必要量物資の確保及び人材養成と人員確保など、これらに要する財政的な支援を行うこと。

③町村間防災通信の確立

商用通信回線が不通となった場合でも、6町村間及び県が互いに情報を送受できる通信手段を確立し、訓練を通じてそれを維持すること。



一般質問

議員6名が 村政を問う

9月定例会の一般質問は16日に6名が行いました。
次のページより、質問議員が要約したものを掲載します。

一般質問とは

一般質問は、村が行うすべての事務や事業に関して何でも質問ができる大事な議員活動の場です。年4回の定例会のみで、臨時会ではできません。

・質問時間

答弁を含め質問事項が1件の場合は30分、2件以上は40分です。

・一問一答方式

質問は、一つ質問をして一つの回答を得る一問一答方式です。この方法は、より問題が深められる方法といわれています。

・事前通告

質問したい議員には、前もって質問内容を記した事前通告書の提出が義務付けられています。



藤原 忍 議員

交流事業を住民主体の活動へ 住民同士の交流活動を中心に 事業を進めたい

海外交流事業について

Q シェルビービルに高校生らを随行して訪問した村長の感想は。

A 今回2回目の訪問となり、シェルビービルの方々と親交を深めることができた。異なる文化や習慣に、その国に滞在し直接触れることは、子どもたちにとっても生涯の大きな財産になると確信している。



シェルビービル中心通り

Q 訪問期間中は互いの顔が見えるが、それ以外の期間は交流が非常に薄い。訪問の前後でも多くの住民が積極的に交流活動に加わることができる企画が必要。住民による住民主体の交流活動が立ち上がった場合、行政として支援することは可能か。

A 民間で国際交流活動が立ち上がった場合、行政としてできる限りの支援を行っていききたい。

Q 来年は訪問団を受け入れる年で、姉妹都市の締結がされて30周年、村の米国との交流の象徴であり大桑小学校玄関に飾られている青い目の人形マーサ・メイが村に来て100周年、更にシェルビービル制定から200年の記念すべき年となる。記念行事の構想は？

A 30年の間に本交流事業に関わられた村民なども交え、何かしらの記念行事を行いたい。

Q 村ホームページに海外交流事業の掲載が現れないが、掲載できるか。

A 掲載するようにする。

国内交流事業について

Q コロナ前の北名古屋市との交流内容は。

A 師勝町が大桑村を「緑の休暇村」に指定したことがきっかけ。西春町と合併し北名古屋市誕生後2008年に友好協定、2012年に災害時の相互協定を締結。以後、老人会交流、そば打ち交流、植樹祭（北名古屋市の森）、子ども交流などで住民同士が活発に交流。コロナで中断。

意見 人口8万3千人の北名古屋市は大桑村の関係人口にとって重要。村の将来のため、再び住民参加の活発な交流が行われることを願う。



のぞきどにあった北名古屋市の森の看板
(2021年撮影、現在は消失)

Q 災害時の相互協定とは。

A 要請があれば災害発生時に物資の提供や職員の派遣を行う。

Q 県内の友好都市である川上村、根羽村との関係は。

A 信州材トライアングル構想のもと植樹祭等に相互で参加している。川上村や根羽村の施設には大桑村の木材が使われ、大桑村役場でも村長室等に川上村と根羽村の木材が使われている。川上村は森の里の秋まつりにも物産販売を行っていただいている。

意見 大桑村の国内交流事業についても村民が知り、村民を交えた形で進むことを切に願う。

中学校の広域統廃合の検討は

少子化であっても機能し得る学校を目指す



洞野 宏 議員

令和7年の国勢調査の結果、大桑村の人口が13.3%減少している。人口減少は、児童生徒の減少でもある。大桑村の教育環境について伺う。

Q 先日、サッカーの上松中・南木曽中合同チームが全国大会に出場し、大桑中の生徒も3人いたが、チーム名に大桑中の名前がないのはなぜか。

A 大桑中は3名で単独部活動は難しいので南木曽中チームへ委任部活として活動している。南木曽中チームの一員のため、大桑中の名前はない。

Q 残念だが、人数が少ないということ。中学校の部活動の地域展開の現状は。

A 男子バスケは、平日土日とも地域クラブとして活動。女子バレーは土日は地域移行、平日は上松中と合同チームで活動。男子バレーは現在休止中。吹奏楽は、木曽スチューデントバンドクラブで上松・大桑の合同バンドで活動中。

Q 現在の児童生徒数の報告を見ると、20人台もいるが、大体10人台で年々減少している。教育委員会として、どう認識しているか。

令和8年度乳幼児数（4/1現在）

	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	計
男	6	9	6	11	6	10	48
女	3	3	6	7	8	11	38
計	9	12	12	18	14	21	86

令和8年度児童生徒数（4/1現在）

大桑小学校		1年	2年	3年	4年	5年	6年	計
	男	11	8	6	8	5	11	49
	女	8	12	11	7	11	11	60
	計	19	20	17	15	16	22	109
大桑中学校		1年	2年	3年	計			
	男	7	7	9	23			
	女	10	7	12	29			
	計	17	14	21	52			

現在の子ども・児童生徒数

A 少しずつ減少している。1歳までは二桁で何とか維持しているが、そのあとは減少傾向。

Q 難しい所だが、心配するのは中学生。生徒数が減れば専科の教員配置が減る。現況と将来の教員数の見通しは。

A 教員については、家庭科のみ免許外の教員。将来については、複式学級にならない限り、現行の配置がなされる。

Q 家庭科であっても、専門の先生に教わりたい。教育環境には、ある程度の学校規模・生徒数・教員数が必要。教育長、教育委員の会議では、学校の規模について議題になっているか。

A 教育委員会の会議でも、現状把握する中で、大桑村の実情に即した内容で検討すべきと認識している。

Q 6月2日の朝日新聞に「文科省は、公立小中学校の統廃合を検討するよう自治体に働きかけを強める。小学校と中学校が1校しかない市町村に別の自治体の学校と統合協議を促す。」と出ていた。国からの指示で学校の統廃合を進めるのか。保護者・村民の皆さんと、また、隣接の町村と検討・協議を進める考えはないか。

A 子どもの数が減少しても基本的に学校運営については変わることはない。実情に対応し、児童生徒一人ひとりの学びを保障していくのが重要。

Q 木曽郡の各町村も厳しい状況であると聞く。令和6年6月議会で大桑小中学校の教育環境をどう整えるかを問い、教育長は「現時点で今すぐどう取組むかまで至っていないが、早期に対応しなければならないと認識している」と答弁。2年経ったが、考えは。

A 基本的には、変わっていない。児童生徒が自主的に学び合える地域に根差した環境を整えることで、少子化であっても機能し得る学校を目指していくのが重要と考える。



勝野 清子 議員

高齢者への様々な対応は 役場へ相談してほしい

Q 後期高齢者医療などの通知について「文字が小さく読みづらい」との声がある。独居の高齢者は内容を理解できず、そのままにすることもある。文字を大きくするなど分かりやすくできないか。

A 後期高齢者医療やワクチン接種の問診票は国や関係機関が定めた様式のため、村独自で文字サイズやレイアウトを変更することは難しい状況である。問診票は医療機関で保存するため拡大にも調整が必要である。村では説明文を添付し、内容の要約や文字の拡大、重要箇所の行間や空白などを工夫している。独居の方全員の訪問は難しいが、住民課とも相談し、福祉健康課や保健師の訪問時に役場へ相談いただけるよう声掛けする。

Q 行政のデジタル化で通知文にQRコードなどが増えている。スマートフォンに不慣れな高齢者には情報の壁となっているが、分かりやすく伝える方法はないか。

A 行政のデジタル化は効率化や利便性向上を目的としているが、高齢者にとって障害となっていることも事実である。分からない情報はそのままにせず、まず役場へ問い合わせたい。役場職員や地域担当職員にも相談できる。社協のカフェでQRコードの見方が分からないとの声があれば、村と社協が連携しスマートフォンの使い方教室などの開催も可能である。イベントは通知文と音声告知放送で周知する。



Q コロナ禍以降、敬老会の形が変わり高齢者から声がある。これまでの開催状況と今後の考えは。

A 敬老会はコロナ禍で中止したが令和4年度から再開した。当時は77歳、80歳、85歳、88歳以上を対象とし70～80人程度が参加した。参加できない方から「お祝い品をもらえないのは不公平」との声があり送迎にも課題があった。令和7年度からは社協へ委託し、お楽しみ交流会と合わせて「敬老お楽しみ交流会」として開催している。令和7年度は77歳、80歳、85歳以上の独居高齢者を対象とし57人が参加した。今年度は会場の収容人数を考慮し85歳以上全員を対象とし、349人中74人が参加予定である。今後も参加状況を見ながら社協やスタッフと対象者や開催方法を検討する。

Q 喜寿や米寿など節目の年齢の方を対象とするなど、高齢者が集い交流できる機会を今後も検討していただきたい。

A これまで節目の年齢の方を招待してきたが77歳や80歳の参加者は少ない状況であった。今年度は85歳以上全員が対象である。送迎などの課題もあるため今後も参加状況を見ながら社協などと協議する。また東海学園大学と連携した体操教室を須原・中部・野尻地区で開催している。学生との交流を楽しみに参加する方もいるため、今後もPRし高齢者が歩いて参加できる身近な場所で実施できるよう努める。

対話型行政への転換は？

地域担当職員を活用してほしい



瀬瀬 悠乃 議員

Q 第6次総合計画の将来像「ここに住みたい、ここで暮らしたい、ここで育てたい大桑村」の理念が庁内や地域で真に共有されているかを問う。単なる冊子配布や受動的対応ではなく、積極的な「対話型行政」へ転換すべきでは。

A 移住希望者は昨年の組織改編で明確化した移住担当窓口へ適切に案内する体制を整える。総合計画策定にあたっては住民との対話を実施してきたが、今後はより時間を確保して住民意見の反映に努める。地域担当職員制度についても、地域や各種団体からの声がけに応じて積極的に現場へ赴く。

Q 阿寺溪谷は観光客が増加する一方、村民が混雑で利用しづらいとの声がある。駐車場の村民枠や広報誌等を活用したシャトルバス優待券の配布など、村民が恩恵を感じられる還元策を実施できないか。また、J R野尻駅の小規模簡易駅舎への建て替え計画に関し、住民の不満や不安を解消するためにも、行政として現状の丁寧な説明や対話の場を設けるべきでは。

A 阿寺溪谷の交通規制で渋滞は緩和されているが、村民の使いづらさも認識している。委託事業者と連携し、駐車場村民枠や広報誌を活用したシャトルバス優待券などの還元策について協議・検討する。野尻駅はJ Rの所有地・建物であり、J Rの方針により建て替えられる計画である。村負担での増築やJ Rによる説明会開催は困難だが、住民からの意見や現状周知については適切に対応・伝達していく。

Q 小中学校の図工や技術授業における木工体験は、地域ボランティア（木造住宅推進協議会等）の熱意に頼る現状があり持続性に懸念がある。県の補助事業（木造建築担い手育成啓発事業等）を導入し、教育委員会が事前調整や事務手続きを手厚く伴走支援すべきでは。

A 学校のカリキュラムや現場のニーズを十分踏まえ、県の補助事業の活用を含め、教育委員会として手厚く伴走支援・手続きの手伝いを

行っていく。

Q 昨年度の中学生による野尻駅公園ベンチ更新など、地域の木材を活用した主体的な地域還元型の取組みを評価する。生徒の「やりたい」「村に貢献したい」という思いを形にするため、地域の大工や事業者、県の事業等とスムーズに繋がる枠組み・選択肢の体系化を進めるべきでは。

A 各教科の指導要領に基づき森林体験や木材の利用意義を学ぶとともに、キャリア教育を通じて社会的自立や将来の目標に向けた土台づくりを推進している。生徒の自主的な地域貢献活動や学校からの要望に対し、今後も教育委員会としてしっかり連携・支援していく。

Q 森林環境譲与税を活用した木育施設推進利用券（児童・生徒1人5,000円分）について、小学生の利用が増加する一方、中学生の利用率が低く施設ごとの偏りもみられる。部活等多忙な中学生の不参加理由を検証し、地域の体験型ワークショップや村内事業者との連携など対象の拡充を図るべきでは。

A 中学生の利用が少ないことが現在の課題である。部活動や日程等の理由を丁寧に検証し、各施設でのオリジナル体験メニューの提供や、村内事業者・体験場所との連携による対象範囲の拡充など、より多くの生徒が自然や木材に親しめる制度へ検討を進める。



阿寺溪谷で泳ぐ様子



常盤井博幸 議員

防犯カメラ設置を進める考えはあるか

警察と相談しながら検討していく

Q 大桑村は県内でも犯罪発生率が低く、治安の良い地域とされている。一方、全国では特殊詐欺などが増加しており、村民が安心して暮らせるための防犯対策が重要である。村内の犯罪発生状況と現在の防犯対策について伺う。

A 令和7年の刑法犯認知件数は、長野県全体で8,089件、木曽郡40件、大桑村5件であった。村内の内訳は窃盗犯3件、知能犯1件、器物破損1件。「電話でお金詐欺」は県内276件であったが、木曽郡・大桑村とも被害の発生はなかった。

S N S型投資・ロマンス詐欺は県内178件、被害額は約21億円であった。木曽郡ではロマンス詐欺が1件、被害額約430万円であったが、大桑村での被害の発生はなかった。

村では「大桑村警察官駐在所連絡協議会」を設置し、警察、役場、議会、消防団、商工会、観光協会、猟友会、交通安全協会、社会福祉協議会などが参加して、定期的な情報交換や共同活動を行っている。また、須原・中部・野尻の3地区に防火防犯組合があり、須原・野尻地区では消防団と連携し、祭礼時の警戒、火元点検、消火栓訓練、防犯灯の清掃・点検などを行っている。一方、中部地区は近年活動できていない。

コロナ禍以前は、消防団と防火防犯組合が連携した「防犯診断」を年2回実施していた。現在は行われていないが、今後はこうした連携した防犯活動が必要だと考えている。

村民への周知として「木曽路安全ニュース」や駐在所広報紙を回覧し、不審情報が入った際は村公式LINEや音声告知放送で注意喚起している。令和8年度には野尻・須原の駐在所を統合した大桑駐在所が役場近くに建設予定で、今後は警察との連携をさらに強化していく。

A 民生児童委員も高齢者向けの「お達者通信」に特殊詐欺対策を掲載し、啓発している。

また、警察では特殊詐欺対策アダプターの設置サービスや工事費補助も行っている。

意見 以前行われていた防火防犯組合と消防団による見回り活動の再開を期待する。

Q 防犯カメラは、犯罪対策だけでなく行方不明者の捜索にも役立つと考える。

県道と村道の交差点、駅、人が集まる場所なども含めて今後設置を進める考えはあるか。

A 現在、道の駅、役場、小中学校、保育園などに防犯カメラを設置している。

防犯カメラは基本的に各施設の管理者が設置するもので、駅であればJRが設置することが基本と考えている。野尻地区の防火防犯組合からは設置要望も出ているが、特定地区だけではなく村全体で検討する必要がある。

防犯カメラには犯罪抑止、証拠映像の確保、安心感の向上といった利点がある一方、設置・維持管理費、プライバシーへの配慮、死角などの課題もある。証拠映像の確保という観点から、不特定多数の人が集まる公共施設やスポーツ公園の駐車場などについて、防犯カメラが必要かどうか、警察と相談しながら検討していく。

意見 費用面も考慮しながら、県道と村道が交わる幹線道路などへの設置も検討し、1台、2台からでも村民が安心して暮らせる環境づくりにつなげていただきたいと考える。



学校体育館へのエアコン設置は 必要だが財源含め慎重に 検討したい



瓜尾美佐子 議員

デジタル教科書導入による課題は

Q デジタル教育への取組みによる子どもたちへの影響と本格導入に向けた課題は。

A メリットとして画像で見ることができること、配慮が必要な子どもたちが学びやすいこと。今後はデジタル教科書での授業の指導力が必要になってくる。

文科省では学習端末の使用が脳の発達に与える影響を調査する方針であり、それを参考にしたい。

Q 全国統計では、視力の低下やネット依存、コミュニケーション能力の衰えなどが指摘されている。デジタル機器による身体への影響など子どもたちに理解してもらえよう工夫した働きかけを求めたい。

A 学校では紙の良さを活かし、デジタルの強みも活かせる方法をとっていくとのことである。

学校体育館へのエアコン設置

Q 学校体育館へのエアコン設置について検討してきた経過と村の対応について伺う。

A 国の補助金制度は2分の1の補助。期限は令和15年まで。補助金利用には空調の新設、断熱工事を施す必要があることから、関係機関にどれくらい経費がかかるか確認をした。資



村のスポットクーラー

材高騰もあり工事費のみで体育館1棟につき4,000万から1億を超えるとのこと。大きな工事費となることから、他にも利用できる補助金など含め、もう少し検討を進めたい。

Q 全国で設置がなかなか進まない理由は、非常に高額な工事費のためであり、国や県に対し補助金の増額など求め、引き続き検討を。

A (村長) 避難所としても教育施設としても昨今の気象状況からエアコン設置は必要だと考える。しかし、財源や、中学校校舎も経年劣化しており強度も含め様々な問題があり、じっくり考える必要があると感じている。

これからの木曽の医療について

Q 新たな木曽の地域医療構想の検討が始まっている。木曽病院も坂下のように診療所化されていくのではないかと心配の声がある。今後、どんな方向に進むのか。

A 県からはまだ具体的なことは示されていないが、国の示すガイドラインでは病床数の削減、医療機関の機能分化が求められている。

木曽地域では疾患の状況によって、隣接の中津川市や松本地域の病院を利用することになる。現在すでにそのような形になっており、連携の必要性は感じている。木曽地域の病院は木曽病院だけであり、病床の維持など郡下町村で引き続き県や国に働きかけ、地元診療所の維持継続についても検討していく。

介護の問題について

Q 人口減少や高齢化、福祉分野での人材不足により介護サービスの維持が困難な現状である。改正介護保険法では自治体の役割が問われてくる。どのように対応していくか。

A 包括ケア会議に村内の介護事業者にも参加してもらって、課題の洗い出し、情報共有を通して方向性を出していく。

Q 施設の老朽化も大きな課題であり、社協の立地場所は危険水域にもなっている。今後の方向性は。

A 共通の課題として検討が必要。施設の維持について複合的に考えていく。

阿寺溪谷及びのぞきど森林公園等の状況

今シーズンの阿寺溪谷における夏季車両通行規制を、7月18日から9月6日まで実施した。期間中の実績(速報値)は、シャトルバス利用者数が11,612人、有料駐車場利用台数が9,447台、レンタル自転車の貸出数が3,105台となった。5月及び9月の土日・連休における規制・運行も定着しており、今後も民間事業者とともに溪谷の保全と活用に努めていく。また、のぞきど森林公園や各キャンプ場の入込実績は横ばいあるいは微減となっており、今後は営業努力による利用者増を期待する。

全国中学校体育大会の出場について

8月17日から24日まで中国地方で開催された全国中学校体育大会に、村内の生徒が出場した。水泳競技では、長野県大会の平泳ぎ100m・200mで優勝した番澤勇仁さんが全国の強豪と競い合い奮闘した。また、サッカー競技では生徒数減少に伴い複数校による合同チームを組んだ大桑中学校の生徒、大野伯さん、岡村昊さん、大脇有瑠斗さんが、北信越大会で長野県勢15年ぶりの優勝を飾り全国大会へ出場し、初戦敗退とはなったものの粘り強い戦いを見せてくれた。

重点支援地方交付金を活用した商品券の実績について

令和7年度補正予算による物価高騰対策重点支援地方創成交付金を活用した配布商品券及びプレミアム商品券について、いずれも使用率が99%を超える結果となった。

児童手当国庫補助金の過誤受給について

令和7年度決算確認の過程で、児童手当の国庫補助金申請において記載誤りによる過年度分の重複が生じ、過大受給(2,838万3,998円)があったことが判明した。県への申請様式における記載ミスに加え、複数のチェック体制が機能しなかったことが原因である。過誤受給分は令和7年度の一般財源剰余金として処理しているが、県からの返還方法の指示を待つ状況であり、今議会に上程する補正予算に返還金を計上している。今後は確認作業の見直しと実行を徹底し、再発防止に努めていく。

姉妹都市シェルビービル市訪問について

国際交流事業として、8月27日から9月4日までアメリカ・シェルビービル市を訪問した。訪問団として高校生3名を含む6名が現地を訪れ、ホームステイやジェフ・ジョンソン市長との懇談を通じて交流を深めた。来年は姉妹都市提携調印から30年の節目を迎えるため、記念となるイベントを計画している。

村事業の発注状況について

8月末現在の村事業の発注率は、事業件数ベースで84%、予算ベースで51%となっている。主な着手事業として各種橋梁修繕や道路舗装、施設更新工事を進めており、今後も順次発注を行っていく。

決算審査意見書所見(抜粋)

令和7年度決算審査は、該当435件のうち書類47件、現地13件、出先機関5か所等を審査した。事業執行等の審査結果は以下のとおりである。

主要事業・委託事業

▶児童手当国庫負担金の誤申請

精算額の誤入力で過大受給が生じ、令和8年度返還予定。再発防止の徹底を要望する。

▶集落支援員事業

農産物直売活性化に貢献してきたが、令和8年度は応募がなく直売組織も解散する厳しい状況。関係機関と連携し地域農業の振興に尽力されたい。

税等の滞納状況

滞納者は前年度比24人増の70人、不能欠損等は14人(27万1千円)。迅速な滞納整理は評価するが、今後も計画的対応を求める。相続放棄による欠損増には、相続財産清算人の選任申し立ても視野に法的手続きによる適切な債権管理に努められたい。

出先機関の状況

▶小中学校

不登校支援は成果を上げている。猛暑によるプール利用制限への対応が共通課題。

個別の課題として、小学校は通学バス起因の教

員退勤遅延改善、中学校は部活地域移行に伴う施設維持管理のあり方が挙げられる。

▶保育園

手厚い保育士配置と補助員活用で安全な環境が整っている。

▶あてら荘

インバウンド効果で宿泊売上が増加し黒字決算。宴会・昼食利用は減少した。

▶社会福祉協議会

人件費・物価高騰と介護報酬のズレ、利用者減少により経営が不安定。経費削減に励むが、国への制度改善要請や広域連携を求める。

▶のぞきど森林公園

キャンプ場等は黒字だが全国的に利用減少傾向。今年度導入した民間連携のラジコンコースが好評である。

▶むすび

令和7年度の各種事業や一般会計及び特別会計並びに企業会計の予算は効率的かつ適正に執行され、円滑に推移したと認める。不透明な社会経済情勢の中、今後は自主財源の確保や財源の有効活用、徹底した歳出見直しによる一層効率的な予算執行を求める。行政においては、村民とともに住みやすく豊かなむらづくりの実現に向け、施策を力強く推進されることを期待する。(監査委員 田中芳男・清水芳昭)

村の未来を、一緒に考えてみませんか

議会では現在、より開かれた議会づくりや、議員定数・報酬の見直し、議員のなり手不足など、さまざまな課題に向き合い、改革に取り組んでいます。

今回は、**議員になってよかったこと**をお伝えします。



郷土である大桑村を知り尽くしていたとの大きな間違いに気づかされたこと、多くの人と関わりをもてたこと、色々な場所や情報を見聞きすることができ、見聞を広める機会をいただいたことです。「ケセラセラ」を人生観のひとつとして抱いていましたが、村政政治の主権者は村民であることを体験し学べていることは、大きな財産。

鈴木 武

議員になって、村民の皆さん、役場職員の皆さん、同僚議員と接する時、期待と新鮮な気持ち良さを感じます。自分のしていることが、いず



れ、どこかで、実を結ぶことがあるかもしれないと思える時間が好きです。

洞野 宏



幹部職員や村内外のネットワーク拡大、監査員としての村財政の把握や住民監査請求の経験、各種現場視察など、多岐にわたる貴重な経験と人脈を得られたことです。

清水 芳昭



議員になってからは情報収集や調査が楽になりました。関係する方々に話を聞いて頂けるようにもなりました。大桑村の登山環境調査と整備もその一つ。議員としての村の暮らしはとても充実感があります。 藤原 忍



議員となって村民の多くの方々との出会いがあり、身近な困りごとなどの声に耳を傾け、行政に届けて共に学び歩んできたことです。

勝野 清子

村民の声を聞いて課題を学び、自分で調べて議会に届ける。村民の思いを行政とともにより良い変化につなげ、地域の役に立てる実感を持ち、自分自身の成長も感じられることが、何よりのやりがいです。



戸前 寿乃

村民の皆さんの申し出を直接村政に届けられることがよいかと思えます。今後も村民の皆さんが少しでも住みやすい村づくりに努めていきたいと思えます。



常盤井博幸



「聞く、動く、つなぐ」を実践する中で、住民の方の声を村政に届けられ、新たな出会い、研修等での学びを大桑村の発展に活かせることに、議員になったからこそその大きなやりがいと喜びを感じます。 瀬瀬 悠乃



40歳で初当選

阿寺溪谷へのダム建設に反対を貫いたことは誇りに思えます。子育てや介護の経験をしながらの長い議員活動のなかで住民の身近な相談相手として活動できることは大きな喜びです。

瓜尾美佐子

Pizza & Cafe MIYABI

こんにちは、Pizza & Cafe MIYABIです 🍕☕

いつも地域の皆さまに支えていただき、本当にありがとうございます。

私たちMIYABIは、地元の皆さまに「また来たい」と思っただけ、身近で居心地の良いお店を目指しています。

焼きたてのピザを楽しみながら、ご家族やご友人との食事はもちろん、ちょっとしたランチやお茶の時間にも、気軽にご利用いただけたら嬉しいです。

「今日はピザが食べたいな」

「ちょっとお茶しに行こう」

そんな時に思い出してもらえるお店になれたらと思っています 😊



地元の皆さまとの出会いや会話を大切にしながら、地域に根付き、長く愛されるお店を目指していきます。

まだまだ至らないところもありますが、皆さまに喜んでいただけるよう、一つひとつ心を込めて頑張ってまいります。

お近くにお越しの際は、ぜひお気軽にお立ち寄りください。

これからもPizza & Cafe MIYABIをよろしくお願いいたします 🍕💫 (馬場雅啓)



2027年春、村議会議員選挙が実施されます

大桑村議会メンバーを決める大切な選挙です



議員の
仕事ってなに？

議会って
なにやる場？

行政との
関係は？



これらの疑問の答えが見つかる場、それが議会（定例会）です。木曽広域テレビでも議会での一般質問などが放送されますが、それは一部で、もっとたくさんの事を時間を掛けて話し合っています。

選挙までの間に12月定例会と3月定例会が開催されます。だれでも自由に傍聴できます。一度、定例会を聞きにきませんか。

